

TOPICS

アステラス製薬、ユーシービージャパン

抗リウマチ薬『シムジア』の追加解析結果をACRで発表

アステラス製薬とユーシービージャパンはこのほど、抗リウマチ薬「セルトリズマブ ペゴル」（製品名：『シムジア』、以下 CZP）の国内臨床試験の追加解析結果を、2013年米国リウマチ学会議（ACR）で発表した。

日本人関節リウマチ患者を対象に2つの二重盲検比較試験（DB）とその後の継続投与試験（OLE）の追加解析を「総合的な疾患寛解」を指標に実施。総合的な疾患寛解とは、臨床的寛解（DAS28 [ESR] <2.6）、構造的寛解（年間m TSS 増加量≤0.5）、機能的寛解（HAQ-DI ≤ 0.5）の全てが達成された状態を指す。

DBにおいて24週時点での指標を達成した患者割合はプラセボ群に比べて CZP 群で顕著に高く、CZP 群は OLE 移行後の 52 週時点でもさらに高い達成率を示したという。これは、メトトレキサートあるいは DMARDs の併用・非併用にかかわらず同様の結果だった。同社では「継続的な CZP 治療により、併用療法の有無にかかわらず長期にわたり総合的な疾患寛解が得られることが示された」と述べている。

また、CZP の有効性、安全性をローディングドーズ投与（速やかな治療効果を得るために、治療初期の投与量をその後の維持用量よりも增量する方法）の有無で比較した探索的解析も実施。ローディング投与群は非ローディング投与群に比べて ACR 改善率および DAS28 疾患活動性における有効性が高く、また抗 CZP 抗体の出現率が低く、安全性は同等だった。同社では、「ローディングドーズ投与の有用性が示唆された」との見解を示した。

キッセイ薬品工業

糖尿病は早期からの治療介入が重要 加来氏、河盛氏がフォーラムで提言



左から加来浩平氏、河盛隆造氏

キッセイ薬品工業は11月16日、糖尿病をテーマにしたメディアフォーラムを開催。川崎医科大学の加来浩平氏と順天堂大学の河盛隆造氏が、糖尿病治療の急速な進歩と早期治療の重要性を解説した。

加来氏は、2型糖尿病では最初の段階で食後血糖上昇が見られ、経年的に膵β細胞機能が低下し、糖毒性によってインスリン分泌がさらに低下する悪循環となるため、早期からの治療介入が重要と強調。ACCORD 試験等の結果から、「血糖をどれだけ下げるかだけでなく、どのように下げるかが非常に重要」と指摘し、食後血糖値を速やかに下げる『グルファスト錠』（一般名：ミチグリニドカルシウム水和物）の有用性を示した。

河盛氏も「切り札は使ってこそ切り札」と早期介入を提言。最近、注目され始めた糖尿病の進展機序として、インスリン抵抗性亢進による膵β細胞の容積低下をオートファジー機構が代償していることや、わずかな高血糖が亜鉛のトランスポーターの働きを阻害し、肝臓から全身細胞へのインスリン供給レベルを低下させることなどを紹介。「軽度のインスリンの働きの低下、食後過血糖を放置してはならない」と述べた。

なお、『グルファスト錠』はグリニ

ド薬で初めて2型糖尿病の効能を取得。SU薬以外の全ての血糖降下薬、インスリン製剤との併用が可能となった。

日本肺癌学会

「肺がん医療向上委員会」発足 アイドルを広報大使に任命

日本肺癌学会は11月22日、都内でプレスセミナーを開き、「肺がんの啓発」に取り組む「肺がん医療向上委員会」を発足したと発表した。患者支援団体や臨床試験グループ、製薬会社、検査会社をはじめ、肺がん医療にかかわる団体と連携し、肺がんの予防推進や診断・治療成績の向上を目指す取り組み。広報大使として、現役医学部生で九州発のアイドルグループ「LinQ（リンク）」に所属する秋山ありす氏を迎えることを強化する。

セミナーでは、同学会理事長の中西洋一氏が、同委員会発足の経緯について「学術、学会活動だけでは、正しい情報が広く伝わらないことを長い間、痛感していた。仕組みを変えることを決断した」と説明。患者や家族の意向を反映した情報発信や、臨床試験の周知などに注力していく考えを示した。当面は、学会内に事務局を置き、寄付を原資に運営する。

また、2014年11月に京都で開催予定の同学会学術集会では、患者や開業医、メディカルスタッフを対象にした企画を盛り込み、肺がん医療を支えるあり方を討議するという。



新たな肺がん啓発活動を発表する日本肺癌学会の理事ら